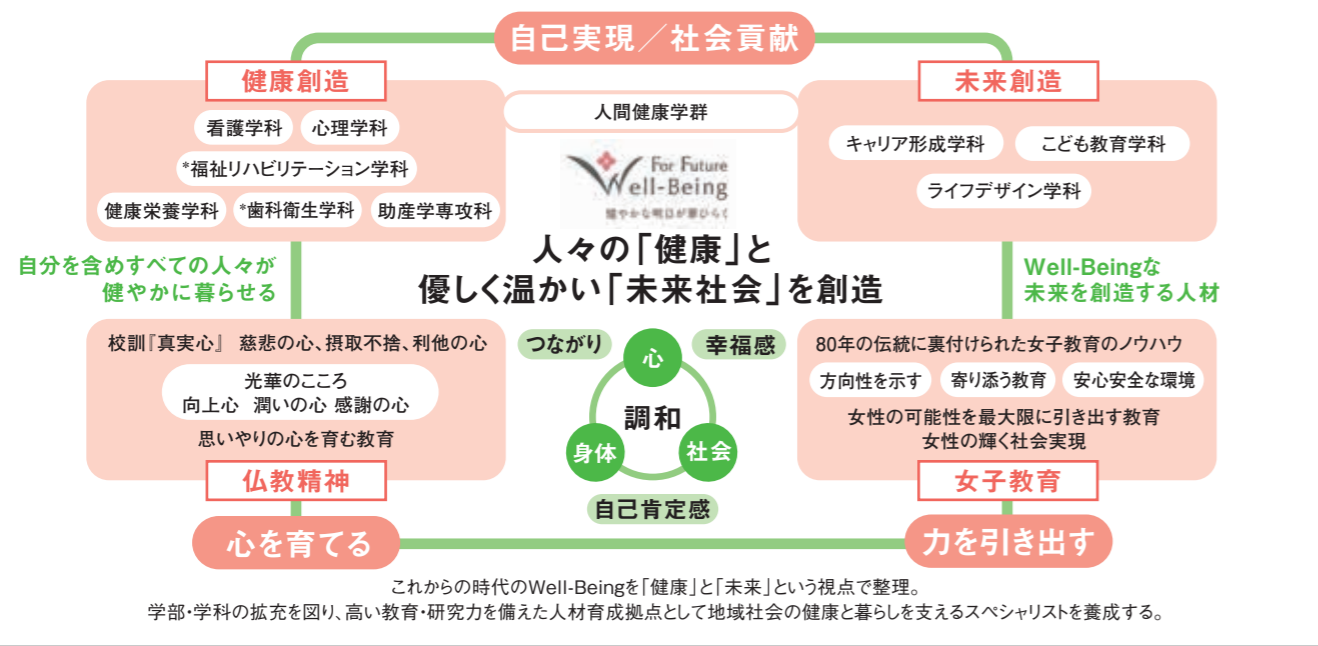




キャンパス/京都市京都市 学生数/1,854人 創立/1964年
 学部/キャリア形成、健康科学、こども教育、看護福祉リハビリテーション(※2024年4月開設予定[設置構想中])、短期大学部
 大学院/心理学、看護学 専攻科/助産学
 経営/学校法人光華女子学園
 設置校/京都光華高校、京都光華中学校、光華小学校、光華幼稚園

ビジョン	For Future Well-Being 人々の「健康」と優しく温かい「未来社会」を創造
課題	現代の実社会に建学の精神をいかに具現化=社会実装できるか

重点施策 Well-Being の実現に向けた「健康」「未来」を創造する学部学科の設置、多職種連携の教育



*2024年度開設予定

注目! 京都府、市、右京区、西京極という地域に愛される学校に向けての社会実装

京都光華女子大学は地域への貢献と、自学の教育の拡充のため、地域連携に力を入れている。その一例が、敷地内に開設した「光華もの忘れ・フレイルクリニック」だ。認知症の治療、フレイル予防を専門とするクリニックとして住民の健康を支えるほか、言語聴覚士や看護師、作業療法士、管理栄養士をめざす学生の実習の場としても活用する。本年度からは学園が主催する「こども食堂」もスタート。食堂には、看護福祉リハビリテーション学部(設置予定)、健康科学部はもちろん、こども教育学部など文系学部の学生もボランティアとして運営に関わる計画だ。これには利用者の相談に乗る社会福祉士や看護師、公認心理師の姿を学生の学びにつなげるという狙いもある。また、大学を地域に解放し、Well-Beingをテーマにした「光華ワクワク×健やかフェス」なども開催している。「京都府とは包括連携協定を、京都市とは健康創造に関する協定を結び予定がある。身近なところでは西京極駅前の美化活動にも取り組んでいる。府、市、右京区、西京極という4つのエリア区分で地域連携を密にし、地元へ愛される大学をめざしていく」(阿部理事長)。



光華もの忘れ・フレイルクリニック



地域の子育て支援の取り組み「光華こどもひろば」

建学の精神を現代の実社会で社会実装、Well-Beingな未来を創造する大学へ

CASE STUDY

京都光華女子大学

女子大への逆風が吹く中で、2024年に新学部の設置を予定している京都光華女子大学。仏教系の女子大として、どこに活路を見いだそうとしているのか? 理事長に聞く。



光華女子学園理事長

阿部 恵木

あべやすき ●1997年学校法人光華女子学園に入職。学園主事、評議員、初等中等教育推進部長、新規事業開発プロジェクト部長、総合企画部長、企画広報部長などを歴任。2011年学園事務局長、理事・評議員、2014年専務理事を経て、2019年より現職。

学園ビジョンとともに危機感を学内共有

本学は真宗大谷派の仏教系女子大学です。幼稚園、小・中・高校、短大も運営しているため、人口減による募集の厳しさを先んじて感じています。

近年、定員管理厳格化の影響で、他大学から本学に流れる受験生が増えています。入学者が増えれば、現場の教職員は安心してしまふ。経営層の危機感と現場の意識とにギャップが生じていました。危機意識を現場と共有する機会として活用したのは、10年ごとに策定している学園ビジョンです。学園創立80周年の2020年に発表した「光華ビジョン2030」では、「ワクワクする学園を目指して」をビジョンに掲げ、人口減に対応した経営理念、目標、戦略を中期計画に示し、全教職員を集

めて学園の現況と進むべき道の共有を図りました。

念頭に置いたのは、「仏教精神に基づく女子教育」という建学の精神を、いかに時代の変化に合わせて具現化するか。かつての女子大がめざした教育は良妻賢母。今では女性の社会進出が進み、本学も情報リテラシー教育に力を入れてきました。しかし、時代はさらに変化しています。新ビジョンは、Society 5.0やSDGsが注目を集める社会状況、少子高齢化という現実、女性の働き方の変化などを鑑み、社会課題に対して本学が持つアセットをどう活用できるのかをベースに考えています。

策定にあたっては、理事長と常任理事、各学部長、事務局が現場の声をヒアリングして原案をつくり、各学部学科に意見を聞く形でまとめました。経営層がリーダーシップを取る形です。2023年度の経営方針では「見過ごさない」をキャッチフレーズに掲げています。われわれ教職員は「摂取不捨」の仏教精神を体現し、園児・児童・生徒・学生を育てていきます。

「健康」をテーマに学部学科を増設

本学の教育の根本にあるのは校

訓「真実心」であり、「思いやりの心」です。現代の実社会で社会実装すべく、「自分を含めすべての人々が健やかに暮らせるWell-Beingな未来を創造する人材育成」と再定義し、改革を推進しています。

Well-Beingの具体化に向け、大学としてめざす姿は「地域の人々の健康と優しく温かい未来社会をつくる大学」です。少子高齢化が進む日本では、それぞれの地域社会で関係機関と連携し、人々の健康を支える人材が求められます。この期待に応えるために、2024年に看護福祉リハビリテーション学部を開設し、新たに作業療法専攻をつくる予定です。同時に、短大には歯科衛生学を開設します。これにより、保健・医療・福祉分野で京滋地区ではトップクラスの12もの資格が取れるようになります。今、医療・福祉の現場では多職種連携が不可欠ですが、実践ができる環境がこれで整います。

18歳人口が減っても、「健康」や「優しく温かい社会」は人間のニーズとして必ず残ります。大学の独自性を追求する意味でも、まずは地域をフィールドとした健康分野の教育を充実させ、地域から応援される大学をめざします。

取材・文/本間学 撮影/谷口哲